社会医療法人近森会

# ひろっぱ

1

Vol.342

発行
2014年12月25日

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者 ● 近森正幸 ／ 事務局 ● 川添昇

年頭所感

# 新しい舞台で

近森会グループ 理事長　近森 正幸

## 五カ年計画の完成

近森病院の五カ年計画が完成したことは、この一年間でもっとも大きな出来事となった。病棟はほぼ完成し400床が稼働、今年春には従来の338床からは114床増床して一般急性期病床452床がフル稼働の状態となる。

高知県の地域医療の問題は、人口が減少しているにもかかわらず日本一多い病床数と、在院日数が長いことで、後期高齢者と国保の医療費が日本一高い点にある。昨年から実施されている「病床機能報告制度」で、高知県がどのような「地域医療ビジョン」を設定し実行するかが注目されている。

このような厳しい時代に急性期の一般病床を114床増床し、ハード、ソフトを整備し得たことは、私たちにとって大きな意義のあることだといえる。

## マネジメント

近森病院は救急医療に機能を絞り込み、救命救急センターを中心にハートセンター、消化器病センター、脳卒中センター、外傷センター、腎・透析センターなどが従来の診療科の壁を取り払い、有機的に連携して救急医療に対応している。病院の機能を絞り込めば絞り込むほどマネジメントが必要となり、病院機能を絞り込めば「地域医療連携」、病棟の機能を絞り込めば「病棟連携」、医療スタッフの業務を絞り込めば「チーム医療」が必要となる。

五カ年計画の完成は、これらのソフトが活かされるハード、舞台の完成を意味している。日本がこれから迎える超高齢社会の医療にもっとも適した形の病院が近森病院であり、急性期からリハビリ、在宅に至る近森会グループであるともいえる。

## 地域医療連携

外来センターは完全紹介、予約外来制で、初診の患者さんもかかりつけの先生方が予約し、紹介状を持って来院、再診はすべて予約患者さんとなり、地域医療連携を徹底している。これにより外来診療のシステム化が進み、患者さんの待ち時間の短縮が実現し、予約すれば必ず専門医に診てもらえるようになった。突然の傷病の発生で救急車や歩いてくる患者さんは、本館1階のER、救急外来で対応している。

## 病棟連携

本館A棟の完成により本館4階フロアはすべて高規格病棟で、A棟はスーパーICU18床、B棟は救命救急病棟18床、C棟はHCUの16床で、救急病棟として機能している。本館A棟5階には北館2階からSCUが移転、脳卒中センター24床が開設された。

これにより高齢で重症の患者さんを看護師の多い高規格病棟でみて、落ち着くと一般病床へ移る「病棟連携」が充実することになる。

## チーム医療

高規格病棟や一般病棟でも多くの医療専門職が病棟に常駐し、それぞれの視点で患者さんをみて、判断し、患者に介入する、自立、自動する多職種による多数精鋭のチーム医療が近森では展開されている。

「チーム医療」の最大の効果は、業務を標準化してルーチン業務を行い、患者さんを診て専門性を高めることで、医師以外のスタッフも膨大な業務、高度な業務を安全確実にできることにある。こうして医師、看護師ばかりでなく、多くの医療専門職が、いきいきとやりがいを持って働けるようになるのだと思っている。

## 機能的な病院として

新しい本館A棟は、中央の大型エレベータで1階ER、2階手術室、3階心カテ、内視鏡センター、4、5階の高規格病棟、屋上ヘリポートと縦の動線で重症患者さんに対する異なる機能が結ばれている。さらに横の動線で1階から4階まで同じ機能を持ったユニットが結ばれ、きわめて機能的な病院となっている。

## 二年後に向け

現在、江ノ口川南岸では近森リハビリテーション病院の新築工事が進んでおり、完成移転後は全面的な改築を行って来年春には近森オルソリハビリテーション病院が移転する。現在の近森オルソリハビリテーション病院の建物には、今春開校予定の近森病院附属看護学校が移転し、グループ全体では、すべての工事が2年後には完了する。

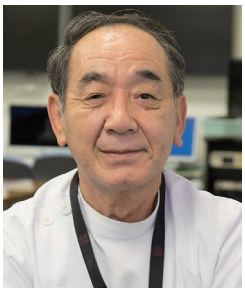
## 心をひとつに

2016年は、この地に近森外科を開院して70年になる。高知県の地域医療はこの数年で激変すると思われるが、今年は近森会グループが新しいスタートラインに立った気持ちで、心をひとつにして走り出したいと願っている。

ちかもり　まさゆき

● 医療今昔物語 ● 内科 1

# 医療を変えた薬



近森病院副院長
内科部長　浜重　直久

先日、日経メディカルという雑誌で、医師・薬剤師が選ぶ「日本の医療を変えた薬」という特集を組んでいました。

たとえば、アムロジピン（カルシウム拮抗薬）、プラバスタチン（スタチン）、シタグリプチン（DPP-4 阻害薬）などによって、脳卒中や心筋梗塞の危険因子である高血圧、高脂血症、糖尿病などのコントロールはずいぶん楽になりました。又、ランソプラゾール（プロトンポンプ阻害薬）の登場で、胃潰瘍による出血や穿孔で手術をすることもほとんどなくなりました。

考えてみると、私が医者になった1970 年代にはなかった薬がほとんどで、今さらながら昔のお医者さんは大変だったろうとしみじみ思います。

新しい薬の知識は、製薬会社の講演会や研究会から得ることが多いのですが、過剰なコマーシャリズムに流されることなく、いいものを早めにみわけられるセンスも医者として大事な能力かもしれません。

はましげ　なおひさ

## 高知県初期研修医団体「コーチレジ」主催のサマーキャンプ

# 知識も交流も深まった有意義なイベントに

近森病院
初期研修医 2 年目　中村　大輔

高知県初期研修医団体「コーチレジ」主催のサマーキャンプが 2014 年 9 月 20、21 日の両日、開催されました。

初期研修医 68 名（県内初期研修医全体の 7 割）、医学生 11 名（うち県外から 3 名）の総勢 79 名が参加した楽しいイベントとなりました。

血液検査データの読み方や画像の読み方、救急対応、エコー、縫合などの実技講習など、盛りだくさんの内容で、知識も深まり交流も深まるというとても有意義な時間でした。

また、県外から看護師によるせん妄の講演もあり、看護師の視点も知ることができました。日頃病棟では迷惑をかけることが多々あると思いますが、一日でも早く一人前の医師になれるように日々頑張っています。　なかむら　だいすけ

## 1月の歳時記

# 葉牡丹

診療支援部企画課
渡邊　奈由

重なり合う葉が、百花の王「牡丹」のように美しいことから名づけられた葉牡丹。正月の縁起花として、昔は「寒牡丹」が飾られていたそうですが、栽培が難しく、近年では代用品として「葉牡丹」が用いられています。

葉に溜まった雫が朝日を浴びてキラキラ輝いている光景はとても綺麗です。花言葉は「祝福・利益」など。新しい年も素晴らしい年になりますように。

わたなべ　なゆ

絵・近森病院附属看護学校設立準備事務局　公文幸子

## お弁当拝見 29

# 母に感謝

近森リハビリテーション病院
2 階西病棟介護福祉士
舟谷　正臣

恥ずかしながら、自分で弁当を作るという習慣がなく、ほとんど母に作ってもらっています。近森に就職することが決まってから、休憩時間の食事は近くのコンビニやスーパーで買ってこようと思っていました。そんなとき母が「お金もかかるき、日勤の時ぐらいは作るから」と言ってくれました。正直かなりありがたかったです。

母の作る弁当は栄養のバランスがとれており、味も一級品だと思っています。ケンカしたときは手抜きですが（笑）。仕事でヘコんだり、疲れている時でも弁当を食べると、また頑張ろうという気持ちになります。

いつも母には迷惑をかけっぱなしで、こんな時しか言えませんが、本当に感謝しています。

ふなだに　まさおみ

## 第 139 回地域医療講演会　2014 年 11 月 28 日

# 救急医療における サイエンス漢方処方

近森病院総合心療センター
副センター長　宮﨑　洋一

▼静仁会静内病院院長の井齋偉矢先生

毎年超多忙ななか、高知に来ていただいている静仁会静内病院院長の井齋偉矢先生が、今年も 11 月 28 日にお越しくださり、「救急医療におけるサイエンス漢方処方」という演題で講義をしてくださいました。

まず最初に、「漢方系がなぜ効くのか」ということの「井齋理論 2014 版」の解説がありました。漢方の作用機序の解明も進んでおり、井齋理論の正しさが証明される日も近いかと思われました。

その後、救急現場で即効性のある漢方を、いつものようにその日から使えるテキスト付で、説明してくださいました。

今年は例年にもまして更にバージョンアップしており、わかりやすく、しかも使いやすいテキストになっておりました。当日ご参加いただいた皆さまには、限りなくお得な講演会になったのではないかと思います。

みやざき　よういち

## リレーエッセイ

# 冬の楽しみ方

近森病院北館 3 階病棟
看護師　井上　晴加

あっという間に秋が終わり冬になりました。寒いのは苦手な方ですが、冬だからこそできることをみつけ、今年の冬も楽しみたいと思います。

毎年冬になると、仲のいい友達と集まり鍋をします。みんなでわいわいしながら楽しく準備し、コタツを囲んでのお鍋はお腹も満たされ、居心地良く、気がつけば何時間も経っていることが多いです。しめにコタツに入りながら食べるアイスが、なんとも言えず大好きです♡

その他にも、クリスマスや年越し、初詣など冬ならではのイベントが盛りだくさん。寒さも忘れるぐらい、一つ一つのイベントを楽しんでいけたらいいなと思います。またイベント以外にもイルミネーションや温泉巡りなど、冬を満喫したいです。みなさんも、冬ならではの楽しみをみつけてみてはどうでしょうか。今年も友達とイルミネーションを観にいこうと現在計画中です。　いのうえ　はるか

私の趣味

# パソコン ～パーツ組み合わせの妙～

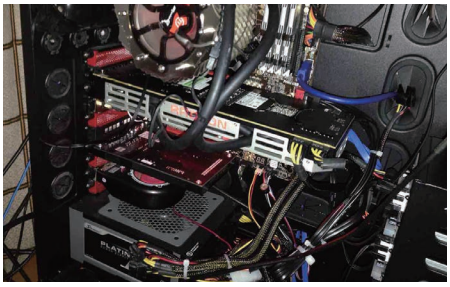
近森病院 HCU 看護師
山﨑　龍一郎

私は趣味に関しては熱しやすく冷めやすいタイプで、いままで色々なことをしてきました。そんな私がいま一番熱中しているのは「パソコン」です。現在はデスクトップ、ノート、タブレットをそれぞれ 1 台ずつ持っていて、用途に応じて使い分けています。特にデスクトップパソコンのほうは非常に特殊で、各パーツの選択から改造まで自分でしています。その特殊さ故か、パソコンショップのブログにも取り上げていただいたりもしています。

パソコンの魅力は「パーツの組み合わせで千差万別の機能を持たせられる」ことにあると思います。動画を編集する、3D ゲームを快適に遊ぶ、音楽を高音質で楽しむ。まったく趣向の異なる分野でも、パーツの組み合わせ次第で本当に多くのことができます。一度パソコンショップに足を運んでみていただければ、少し面白さがわかるかもしれません。

また、この趣味で得た知識を活かして、「どんなパソコン買えばいい?」「インターネットが繋がらなくなった!」などの問題解決にもアドバイスできると思います。あと余談ではありますが、タロットカード占いも趣味にしていますので、そちらでも興味がありましたら声をかけてください。

やまさき　りゅういちろう



## 第 25 回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会　2014 年 12 月 5、6 日

# 実臨床に役立つ有意義な会に

近森病院　リウマチ・膠原病内科
部長　公文　義雄

第 25 回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会を 12 月 5、6 日に高知市文化プラザかるぽーとにて開催させていただきました。

慣れない降雪に交通機関が影響を受け 1 時間遅れの開催でしたが、当院からは研修医の川真田純先生、藤原麻美先生にも演題発表をいただき、前年を上回る演題と参加者数で学会を盛り上げていただきました。

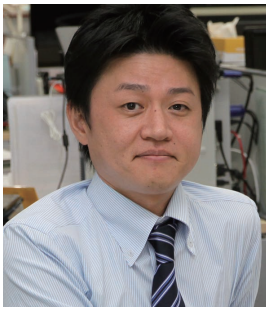
今回より若手奨励賞セッションに加え研修医奨励賞セッション、ポスター発表を新設し、また、新たな試みとして中国・四国支部で活躍中の若手・女性医師によるシンポジウムも開催しました。講演では、日進月歩のリウマチ診療のトピックを日本の第一人者の先生方にご講演いただき、さらに、リウマチ膠原病の難病態の診断のコツや、妊娠と薬の問題等のお話もあり、研修医やコメディカルにも大変勉強になり、有難い講演会となりました。

さらに、今回は 2 日間の開催となり、初日には全員参加の情報交換会を新企画いたしました。高知の食と酒をつまみに、研修医からベテランまで貴重な実臨床に役立つ知識を共有して頂き、和気藹々とした交流の宴となりました。実りある学術集会を無事開催できたことに感謝し、秘書とメディカルスタッフの絶大な支援に深謝致します。

くもん　よしたか

▼左から演題発表者の川真田先生、藤原先生

## VHJ 研究会 第 25 回職員交流研修会　2014 年 11 月 21、22 日



# 全国から 370 名が交流を深め

VHJ 研究会第 25 回職員交流研修会事務局
診療支援部企画課
部長補佐兼企画課長　山崎　啓嗣

11 月 21、22 日、VHJ 研究会第 25 回職員交流研修会が開催されました。これは毎年 11 月にその年の幹事病院所在地にて行われ、25 回を数える今年は近森病院が幹事として、全国 27 の民間基幹病院から 370 名の参加者を得て盛大に開催されました。

メイン会場であるザ・クラウンパレス新阪急高知での準備に加え、病院見学の対応もあって 170 名の当院スタッフが動員されました。見学受入れが平日午前であったことから患者さんも数多くいらっしゃるなか、各部署には多大なる理解と協力をいただきました。おかげさまで、2 日合わせて約 300 名の方々に見学していただくことができました。一部、時間の関係でご案内できなかった部署もありましたが、近森病院を隅々まで見ていただけました。

メイン会場での基調講演は、旭食品の竹内克之会長から中・四国制覇、全国展開というスケールの大きい企業の成長戦略をお話しいただき、京都大学東南アジア研究所の松林公蔵教授には高知県の中山間部やアジアの諸地域におけるフィールド医学の視点から、高齢者医療の課題についてご教示をいただきました。

懇親会ではよさこいチーム「ちかもり」による演舞を披露、広い会場が窮屈に感じるほどの迫力の踊りを魅せていただき、参加者からは「鳥肌がたって涙が出そうに」などの感想もあり、たいへん嬉しく思いました。

翌日の分科会でも活発な意見交換がなされ、本年度の職員交流研修会は盛会に終えることができました。今回、事務局では 1 年前から準備をはじめ、直近 3 カ月は毎日遅くまで作業に追われてきましたが、すべてのプログラムを終えたいま、改めてロジスティックスの大切さを実感することができました。

お帰りの際、多くの方からお礼の言葉をいただきましたが、この職員交流研修会はわれわれスタッフにとってこそ本当に大きな収穫のあった会だと思います。

管理部の一員として、グループ全体を支えていけるよう引き続き努力していきたいと思いました。皆さまご協力いただきましてありがとうございました。

やまさき　ひろつぐ

▼懇親会では「はし拳」で楽しんだり。

▼よさこいチームによる演舞も披露されました

# 2014 年 MVP 受賞者のみなさん

▼ハートセンター MVP

▼近森会グループ MVP

## 近森会グループ MVP 受賞者のみなさん

| 部　　門 | 受賞者(代表) | 理　　由 |
|---|---|---|
| 近森病院手術室　看護師 | 鈴木　歩美<br>北山 百合香 | 年々増加する一方の独自仕様の器械や工程に対応するため、術式を完全に理解し覚え込む必要のある直介業務に対し、今年相当の進歩があり十分信頼に足る看護師である。 |
| 近森病院<br>地域医療連携センター医事課 | 松本　圭司 | 自発的な行動力を発揮して、よさこい祭りのスタッフ活動や「近森チャレンジサークル」の立ち上げや運営を通じて、職員間の親睦に大きく貢献した。 |
| 近森病院 6A 病棟　看護師長 | 永野　智恵 | 二度の本館引っ越しにおける各部門との連絡調整や手順作成など、看護部に限らず全体の統括的役割を果たし、無事引っ越しを終わらせた手腕と大きい貢献に対して。 |
| 企画課　課長 | 山崎　啓嗣 | 常に革新を続ける近森会グループにとって、今や必要不可欠となった「企画課」を統率し、看護学校の設立準備、VHJ 職員交流会などのプロジェクトを成功させた。 |
| 看護部　秘書 | 岡﨑　愛 | 病棟再編に伴う行政への届出書類の作成や勤怠システム導入、VHJ 職員交流会などにおいて優れた調整力を発揮し、常に向上心を持った働きをする。 |
| 近森オルソリハビリテーション病院<br>事務長補佐 | 中山　潤一 | 地域包括ケアの施設基準取得に向け、地域医療支援病院の届出調整や四国厚生支局の調査、保健所立入検査と繁忙を極める中、休日・夜間を問わず真摯に業務に向き合った。 |
| 統括看護部長 | 岡本　充子 | VHJ 職員交流会において看護管理分科会の企画運営や総合司会などの重責を見事に果たし、他施設との交流も盛んに行われ、今後の看護部に大きな影響を与えた。 |
| 近森病院附属<br>看護学校設立準備事務局 | 和田　廣政<br>中澤　章子<br>公文　幸子 | 看護学校設立準備室のスタッフとして煩雑な申請書類を完成させ、学校のスタートのために尽力した。 |
| 近森病院旧北館 3 階病棟<br>（チーム受賞）代表　看護師長 | 佐藤久美子 | 部署手指衛生遵守率が高く、4 月～ 10 月までの集計では部署比較 1 位を 4 回獲得、平均遵守率がトップであった。 |
| 看護部集中病棟系<br>病床コントロール担当<br>集中治療部シニア看護師長／地域医療連携センター主任／救命救急センター／ ICU 看護師長／救命救急病棟看護師長 | 工藤　淑恵<br>村田　美和<br>西森　百合<br>山脇　寛子<br>森澤　恵 | 患者の重症度、看護・医療必要度に対応した適切な入室を行っている。また病棟間連携を推進したベッドコントロールを行うことにより、ＥＲ受入についても地域連携センター担当とともに、スムーズに入院ベッドを決めることができている。急性期病院としての機能の重要なカギとして活躍した。 |

## ハートセンター MVP 受賞者のみなさん（非役職者のみが対象）

| 部　　門 | 受賞者(代表) | 理　　由 |
|---|---|---|
| 近森病院　ソーシャルワーカー | 秋田　紗希 | 入院時から深くかかわり、患者・家族の立場に立って早期に退院調整に取り組み、在院日数短縮にも貢献した。 |
| 近森病院　理学療法士 | 岩崎　史明 | 循環器 PT チームのリーダーとして、スタッフ教育や学術活動に尽力してくれた。 |
| 内科秘書 | 織田 真由美 | 日常の内科秘書業務だけでなく、合同 CPC やカテーテルライブなどのイベントを見事に院内外の調整をし、成功させた。県内外の他施設からも高い評価を受けた。 |
| 臨床工学技士 | 豊永　哲朗 | 緊急カテなどの呼出や超過勤務も多いが、心臓カテーテル検査だけでなく EVT やカテーテルアブレーションなど多方面においても直接介助や外回り業務に大いに貢献した。 |
| 医事課 | 森岡　直子 | 業務に忠実で速やかな対応を常に行い、心臓血管外科手術の材料把握もしっかりしており医療事務の観点からも的確なアドバイスをした。 |

知ってほしい新しい近森病院 4　本館 4 階フロア

# 高度医療を実践できる高規格環境

集中治療部運営委員長
心臓血管外科部長　入江 博之
集中治療部シニア看護師長　工藤 淑恵

近森病院 512 床（一般 452 床、精神 60 床）のうち、76 床を集中治療ベッドが占めています。

一般病床に対して六分の一を有しており、より高度医療に対応できる設備を整えています。また、ER、手術室、カテ室、ヘリポート等とエレベーターで直結しており動線に無駄のない配置をしています。

## ICU （Intensive Care Unit）病床数　18 床

スーパー ICU として従来の ICU より格段に広い 1 ベッド当たり面積（以前の基準 15㎡→ 20㎡）を確保しており、最重症患者の治療を受け持ちます。血液浄化・人工呼吸・補助人工心臓・体外循環などが同時に必要な状況にも対応可能です。さらに広い個室も完備しており、スタッフステーションの奥には、臨床工学技士が 24 時間常駐して、集中治療センターと ER の患者さんの状態を監視するウォッチルームを設けました。

## 救命救急病棟病床数　18 床

1 階 ER からの救急搬送患者を制限なく入室可能にする体制を整え、医師は 24 時間常駐します。ヘリポートを有するため、三次救急患者受け入れを積極的に行えるように ER との連携を強化しています。設備面では個室を 8 床にし、1 患者さんに 1 台の電子カルテ、モニターディスプレイを配置するなど、より患者さんを診る精度を上げる工夫をしています。

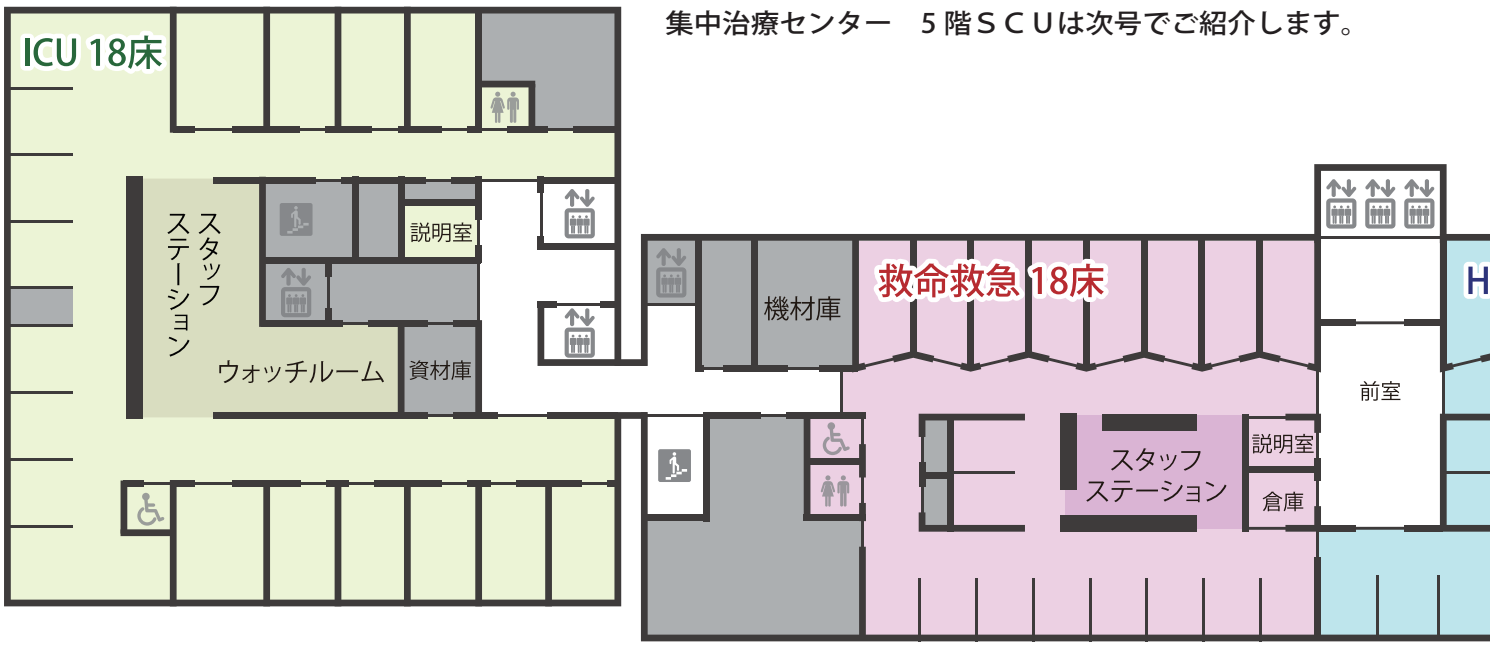
## HCU（High Care Unit）病床数　16 床

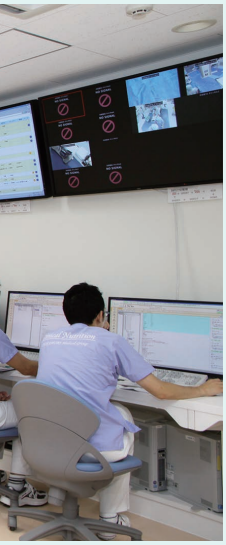
ICU および救命救急病棟と一般病棟をつなぐステップダウン病棟として急性期医療を補完する特色を持っています。病棟間連携も重要であり院内連携の要としての機能を持っています。ハード面は救命救急病棟と同様の作りで個室は 6 床です。

▲臨床工学技士が 24 時間常駐して生体モニターを監視する ICU

▲ ICU および救命救急病棟と一般病棟をつなぐステップダウン病棟と

集中治療センター　5 階ＳＣＵは次号でご紹介します。

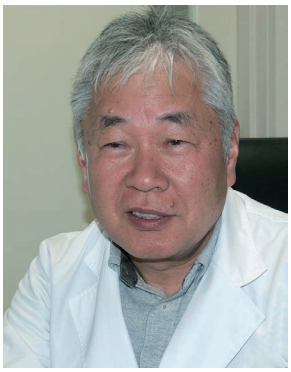



ウォッチルーム

してのHCU病棟

# 近森病院総合心療センターの この一年の変化について

近森病院総合心療センター
センター長　明神和弘



## 急性期病床機能に特化して１年

急性期病床機能に特化した近森病院総合心療センター60床がスタートして１年が経過いたしました。

病床削減の背景には、薬物療法の進化や早期発見・早期介入、多職種チーム医療による地域システムなどの取り組みに伴い、入院日数の短縮や在宅生活維持が可能になってきたことがあげられます。

## この１年間の成果

この１年間の成果としてこれまで以上に多くの患者さんが在宅に復帰し長期間在宅で生活ができていること、スタッフの退院調整に対する意識が向上し入院当初から取り組むことができるようになったこと、多職種との協業がこれまで以上に円滑となり、カンファレンスが増えて情報が増えたことなどがあります。

また、近森病院ERとの連携が強化され、患者さんに安全安心な医療の提供ができるようになったと思います。

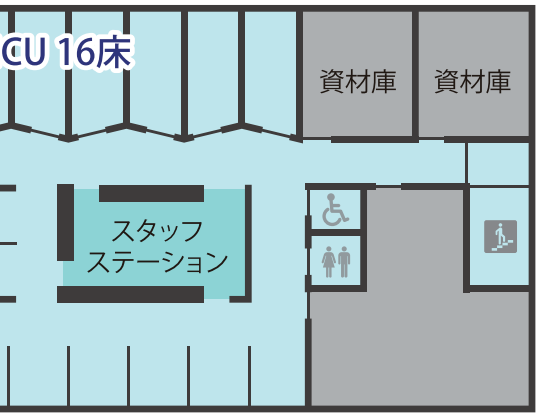
## 今後の課題

今後の課題として、当センターの目標である対象者の就労継続や質の高い生活の維持のために、入院病床は一つの社会資源であると捉え、在宅ケア部門に人的資源（質と量）を投入すること、これまで以上に福祉と連携し社会資源を有効活用することを網羅した、在宅生活支援システムの構築が重要であると考えております。

みょうじん　かずひろ

## 近森会保育室 そると

勤労感謝の日「いつもありがとう！」おそうじやおいしいご飯をつくってくれたお礼に、メダルをプレゼントしました。




## 世界糖尿病デイ イベントを開催

近森病院糖尿病センター
リウマチ・膠原病センター
看護師主任　岩井　千代美

11月14日の世界糖尿病デイにちなみ、院内の糖尿病療養指導士が集い、イベントを開催しました。血糖測定や検査の説明、運動療法の実際や食品パネルを用いての食事療法など25名の参加者があり、にぎやかでした。

いわい　ちよみ

# 乞！熱烈応援

## ３度目の近森病院

近森病院呼吸器内科
科　長
石田　正之

３度目の近森病院での勤務を科長として迎える事となりました。2005 年に呼吸器内科が誕生し、呼吸器診療、感染症診療に関してこれまで様々な取り組みを行ってきました。その取り組みを継続し、そしてさらに発展・昇華させ、呼吸器ならば近森病院となれるように邁進してきたいと思っています。

いしだ　まさゆき

## お互いに理解することから

近森病院５Ｂ病棟
看護師長
佐藤　久美子

12 月 1 日から、看護師長心得を命じられました。まずはスタッフの方とコミュニケーションを行いながら、お互いを理解することから始めたいと思います。

明るい職場環境づくりと患者さんが安心・安全に医療（看護）を受けていただけるよう病棟管理に努めたいと思います。

さとう　くみこ

## 利用者支援を第一に

社会福祉法人ファミーユ高知
高知ハビリテーリングセンター相談支援部
主任　西森　弥華

12 月 1 日付で、相談支援部主任心得を拝命しました。相談支援部は他部署や外部との関わりが深く、窓口的な役割を担っています。

この度、このような重責を担う事になり、身の引き締まる思いで一杯です。各部署との連携を図りながら、利用者一人ひとりの思いを大切に、より良い支援に繋げられるよう、頑張っていきたいと思います。

にしもり　みか

## 心強い仲間とともに

近森病院 7A 病棟
主　任
上戸　理恵

近森病院へ就職してから、当時保育園に通っていた娘が高校生になるほどの年月が経ちました。その間、認定看護師という道にも進み、知識や経験だけでなく、「仲間」という財産を得ることができました。

この心強い「仲間」と一緒に患者さんや家族のために、そして「仲間」のためにできることから少しずつ取り組んでいきたいと思います。

うえと　りえ

ハッスル研修医

## 責任の重さを

初期研修医　山﨑　勇輝

「平素よりたいへんお世話になっております」という、紹介状作成にも違和感のなくなった今日このごろですが、近森病院での研修がスタートして半年以上が過ぎ、胸中にあるのはまさにその文言通り、周囲の皆さんへの感謝の一語に尽きます。

先生方はもちろん、コメディカルの皆様とも各領域について議論させていただく機会が多く、多くのスペシャリストの方々から直接ご指導いただくことができる環境にいることを、非常にありがたく思う一方で、多領域で豊富な知識を必要とされ、常に最新の知見を勉強し続ける必要のある医師という職業に、改めて責任の重さを感じます。

自分の理想は、入院から退院後の生活までを総合的にマネジメントする医師です。リハビリや栄養、社会制度など、勉強したいことは数多く、しかし実際は日常診療の一コマ一コマが疑問ばかりで、道のりの長さを思い知る毎日です。至らぬ点多々あるかとは思いますが、これからも容赦のないご指導、Call いただければ幸いです。

なにとぞ、「今後とも宜しくお願い申し上げます」。

やまさき　ゆうき

### 2014 年 11 月の診療数　システム管理室

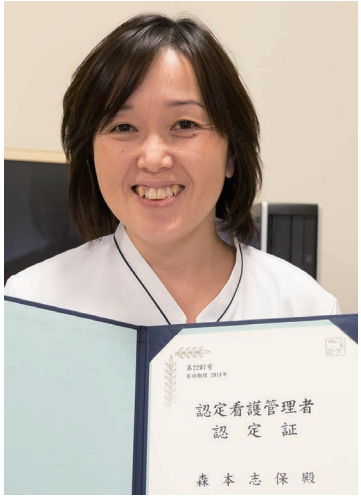
| | |
|---|---|
| **近森会グループ** | |
| 外来患者数 | 16,188 人 |
| 新入院患者数 | 801 人 |
| 退院患者数 | 780 人 |
| **近森病院（急性期）** | |
| 平均在院日数 | 15.58 日 |
| 地域医療支援病院紹介率 | 66.41 % |
| 地域医療支援病院逆紹介率 | 182.34 % |
| 救急車搬入件数 | 509 件 |
| うち入院件数 | 235 件 |
| 手術件数 | 390 件 |
| うち手術室実施 | 246 件 |
| →うち全身麻酔件数 | 136 件 |

● 平成 26 年 11 月 県外出張件数 ●
件数 86 件延べ人数 206 人

看護部 キラリと光る看護 part2

# 認定看護管理者になりました。

近森病院
教育担当看護師長　森本 志保




平成 26 年度日本看護協会による認定審査に合格し、認定看護管理者としての資格を取得しました。現在、全国では 2362 名の認定看護管理者がおられ、高知県では 39 名の方が病院や地域で活躍されています。

認定看護管理者の役割は、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献することを目的としています。このような大きな役割を私が果たせるか、心配なところもありますが、気負わず一歩ずつ成長できればいいかな……と思っています。

現在は、近森病院で専任の教育担当として人材育成に関わっていますが、これまでは組織の中での活動が多く、外部との関わりを持つことが余りなかったですが、少しずつ活動の場も広げていきたいと思います。地域への貢献ができることがあれば、ぜひお役に立ちたいです。

認定看護管理者となり、５カ月が経過しましたが、まだまだ新米の認定看護管理者です。近森会グループには、他に３名の大先輩の認定看護管理者の方がおられますので、ご指導を受けながら、今後もいい実践ができるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。　もりもと　しほ

## 看護部●制服 ★リニューアル★

近森病院看護部
看護師長　中島 久美

当時めずらしいカラーのスクラブにしたのが 2009 年 10 月 12 日。それから 5 年、11 月 17 日から近森病院看護師のユニフォームが白いユニフォームに変わりました。現在病院には様々な色のユニフォームがあふれて看護師でも 4 色あり、その色を統一したいという思いと、看護師がすぐわかるように白いユニフォームにしました。ユニフォームを決めるにあたり、ユニバーサルデザインで着やすく動きやすく細部までこだわりました。　なかじま　くみ

## ワッペン、バッジ、広報誌あれこれ 11 摂食嚥下委員会

# 「もぐもぐごっくん通信」

近森病院理学療法士
主任　高芝 潤

「食べる」ということは、人間にとって最も重要な欲望であり、その機能を改善することは患者さんの大きな喜びに繋がる可能性があります。その反面、誤嚥は肺炎や窒息を引き起こし、生命予後に関わる重大な問題でもあります。摂食嚥下障害にはチーム医療が不可欠です。安全でより高い QOL の「もぐもぐごっくん」を願い、通信は作られています。　たかしば　じゅん

## 図書室便り

（2014 年 11 月受入分）

- 心 CT03　冠動脈狭窄評価の最前線／木村文子（編）
- 心 CT05MDCT による冠動脈プラーク診断／小林芳樹（他編集）
- 心 CT06 不整脈疾患と MDCT ／船橋伸禎（編）
- 心 CT07　先天性心疾患の MDCT ／陣崎雅弘（編）
- 心 CT08　MDCT・MRI・SPECT・PET をいかに使い分けるか／北川覚也（他編）
- 心 CT09　心 CT は心エコーにどこまで迫れるか／加地修一郎（編）
- 心 CT010 大動脈瘤・大動脈解離と MDCT ／加地修一郎（編集）
- みき先生の皮膚病理診断 ABC1. 表皮系病変 2. 付属器系病変 3. メラノサイト系病変 4. 炎症性病変／泉美貴（他著）
- 形成外科エキスパートたちの基本手術／野崎幹弘
- 絶対わかる抗菌薬はじめの一歩一目でわかる重要ポイントと演習問題で使い方の基本をマスター／矢野晴美
- 糖尿病看護フットケア技術／日本糖尿病教育・看護学会（編）
- 爪のケア・手足のケア技術／日本フットケア協会（編）
- 看護白書平成 26 年版　地域包括ケアシステムと看護ケアシステム構築に向けて看護職が担う役割と価値／日本看護協会（編）

《別冊・増刊号》

- 日本医師会雑誌第 143 巻特別号 (2) 生涯教育シリーズ 87　感染症診療 update ／岩田敏（他編）
- 胆と膵第 35 巻臨時増刊特大号膵炎大全～もう膵炎なんて怖くない～／伊藤鉄英（企画）
- 臨床と微生物 41 巻増刊号医療関連感染と感染制御の基本／小林芳夫（編集主幹）
- 泌尿器ケア 2014 年冬季増刊　患者さんへの説明にそのまま使える！オールカラー！泌尿器科手術のすべて／荒井陽一（監）
- 透析ケア 2014 年冬季増刊　オールカラー「セルフケアができる！」を支える透析室の患者指導ポイントブック／岡山ミサ子（他編著）
- 呼吸器ケア 2014 年冬季増刊　オールカラーこの 1 冊でズバリ知りたい！とことん理解！ NPPV まるごとブック／石原英樹（他編著）

# 近森病院の「パンフレット」ができました。

医療従事者や学生さんなどを対象としています。
ご協力ありがとうございました。

## 職員旅行

ハワイジュラシックパーク▶

▼ウィーンシェーンブルン宮殿の前で

▼ウィーン ヨハン・シュトラウスの銅像の前で

▼ハワイ

## 編集室通信

私の仲間が年末で職場を去って行く。職制上は部下であったが、こんなに敬愛させていただいた人にはめったにめぐり逢えない。彼に対する医療現場のスタッフの信頼は抜群だった。

前職では 40 年余りほとんど身も心も安まることもない苦労の連続であったと思う。我々の仲間として第二の人生をゆっくり送っていただきたいと思っていたが、体調を少し崩されているとの由で退職願いがあった。言い出したらきかない人だが本当に惜しい。これからもやあやあと酒を酌み交し好きなゴルフもご一緒したいと思っている。短い付合だったけど「有難う」ございました。

（かえる）

人物ルポ 296 ●近森病院 神経内科　科長／葛目大輔さん

# 病歴を丁寧に聴くという王道を歩む

### 神経内科で内科の王道を歩む

専門分野はもとより、日本の歴史や経済、社会全般に亘って造詣が深く、「すごく勉強家」と評される葛目科長。神経内科でまず求められる人間観察の根っこは、どうやら幅広い読書で養われたものらしい。

検査機器の発達で、検査に比重がかかりがちな今日。まずは患者さん自体をじっくり診て、病歴を丁寧に聴くという内科の王道を歩むのが神経内科であり、この「基本的なメッセージを若い人に伝える役割を担ってくれているのが葛目科長」だと、山﨑正博主任部長の期待も大きい。

### 「よう分からんから」と紹介状

そもそも、神経内科に進みたいと葛目科長が思ったのは、大学時代に老化研究の第一人者松林公蔵先生の神経内科の講義を受けたのが最初だった。神経系はいかにも奥が深く、「コムズカシそうな印象」を持っていたのが、まるで「推理小説を読むような興味で取り組めた」からだという。

紹介状には「よう分からんから診て欲しい！」という内容が書かれる場合があり、患者さんはその状態といかに折り合いをつけていくか、日常の不便をいかに解消するかを共に考えることに情熱を燃やしている。

### 「いつもとちょっと違う」に気をつけて

突然ロレツが回らなくなったとか、動けなくなったというような、分かりやすい「普段と全く違う状態」なら、本人も家族も慌てて受診するだろう。

しかし、例えば、「なんとなくいつもと動きが違うようだ」とか、「何となく意識がボンヤリしているように見える」といったような、「いつもとちょっと違う状態」を感じたり、家族が見た場合、神経の病気があるんじゃないかと疑い、早めに受診して欲しい、のだそうだ。

### 神経内科の奥の深さに魅力

とはいえ、神経内科の病気については、「時間の経過が答え」といわれたり、発症から時間が経過して診るほど診断が正確になる、などといわれるように、60 兆もの細胞でできている身体の不調の解明は、やはり相当に奥が深いものがある。

だから、そんな病気に取り組むのには、当事者も家族もそれなりの覚悟が要るのかも知れないが、葛目科長にとってもだからこそ計り知れないやり甲斐を感じさせるのだろう。

▲診察中　▼オーストラリア職員旅行で

### 科長としての在るべき姿

5 年半前、近森会へ就職と同時に科長に就任した際の『ひろっぱ』の抱負に、「次世代を担う神経内科医師の育成に力を注ぎたい」と書いた。

以来、研修医の研鑽のため、またコ・メディカルスタッフの学会発表のためのサポート役として力を注いできた。「自分が前に出過ぎない。聞き役に徹する。適格なアドバイスを行なう」など、控えめで仕事熱心な葛目科長らしい「科長の在るべき姿」を目指している。

### オフの顔

オフにはできるだけ家族と過ごしたい、と希望は持っているが、「ロクに家に居ないので、呆れられていると思いますよ」と、ニッコリ。6 歳と 4 歳の男の子二人のいわゆる生意気さ加減は、「自分の小さい頃にそっくり。思い出してしまう」と、表情を崩し、嬉しそうに笑う。

ベスト体重からは 30 キロ近く太ったらしいが、その頼り甲斐のある雰囲気は、体型には関係ないように見える。

---

ワイン講座 ● 27

## ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その④

## シラー

エルミタージュ／マルク・ソレル／フランス、ローヌ地方●畑は馬で耕作する、瓶詰めは樽から清澄も濾過も行わず直接瓶詰めするなど、自然な風味を尊重している職人スタイルの生産者によるもの。

フランス、ローヌ地方で偉大なワインは、このシラー種から造られています。ローヌは、ボルドー、ブルゴーニュに隠れて、目立たない産地ですが、フランスの御三家の生産地のひとつと言われています。

さて、シラー種（Syrah）と、シラーズ種（Shiraz「オーストラリア産」）は同じなの?と、良く質問を受けます。シラーズは、ローヌのシラーのクローンをオーストラリアに持ちこみ、植樹されたのが始まりです。しかし、今日、出来上がるワインのスタイルは、違ったものになっています。

ローヌのシラーは、複雑で繊細、そしてエレガント。一般的に黒胡椒を思わせる香りやシナモンなどといったスパイス系の香りなど、味わいとしては酸がしっかりしていて凝縮感がある味わいに対し、オーストラリアのシラーズは、シンプルでぶどうの旨みを最大限に引き出しています。

色合いは一般にローヌのそれよりも濃く、カシスなどのような黒い果実の香り、香りに甘さを感じさせるともいわれ、味わいとしては骨格が大きく、リッチで濃厚なタイプが多く、タンニン（渋み）が少ないという点が上げられます。

オーストラリアは、シラーズこそが、今のオーストラリアワインを確固たるものにしたと言っても過言ではありません。

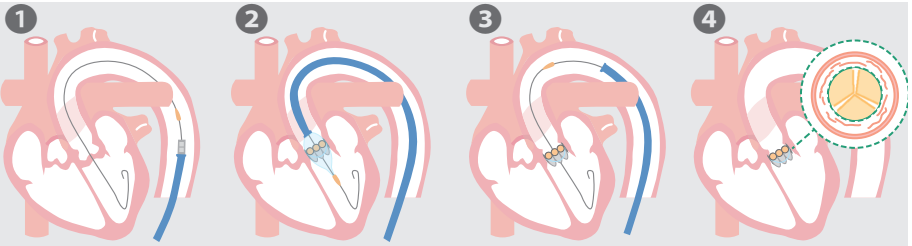
鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

## 近森病院 TAVI 実施施設に認定 ● 高知県初（四国では 2 例目）

# TAVI（Transcatheter aortic valve implantation）
# 経カテーテル的大動脈弁置換術を実施

近森病院心臓血管外科　部長　入江 博之

「TAVI」とは、カテーテルを用いた「大動脈弁狭窄症」の新しい手術方法で、体にかかる負担が少ないことが大きな特徴です。近森病院は、厳しい審査の後、四国で 2 番目、高知県初の TAVI 実施施設に認定され、12 月 11 日（木）に、87 歳の女性患者さんに、県内で最初の「TAVI」を実施しました。



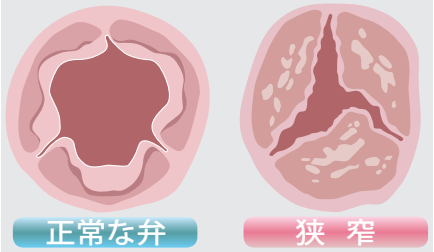

①生体弁を装着したカテーテルを心臓まで運びます
②大動脈弁に到達後バルーンをふくらませ、生体弁を広げ留置します
③カテーテルを抜きとります
④残った生体弁は患者さんの新たな弁として機能します

※こちらは大腿動脈からの挿入のケースです。その他心尖部（肋骨の間）からのケースがあります。

## 対象疾患

「大動脈弁狭窄症」とは、心臓の出口の扉である「大動脈弁」が硬化して狭くなり、開きにくくなる病気です。主として加齢が原因のため、高齢者に多く、重症になると胸の痛みや息切れ、呼吸困難などを生じ、心不全で死亡します。高齢化に伴い，あきらかに増加している疾患の一つです。

標準的な治療は、開胸して心臓を止め、傷んだ大動脈弁を人工弁に交換する「大動脈弁置換術」ですが、高齢や高いリスクなどのために、このような心臓手術が受けられない患者さんもいます。致死的な心臓疾患でありながら、有効な治療が受けられないということは、近い将来、高い確率で死亡することを意味しますが、そこに登場したのがこの「TAVI」です。




## 「TAVI」のメリット

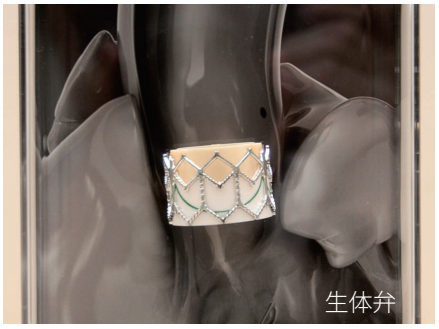
「TAVI」では、大きく開胸することも、心臓を止めることもなく、足の付け根の血管や、心臓の先端から、カテーテルを用いて人工弁をとりつけます。したがって、体にかかる負担が極めて少なく、高齢で体力の弱い患者さんや、リスクが高いため通常の心臓手術が困難な患者さんに対しても、治療を行うことができます。体にかかる負担が少ないことから、入院期間も短く、早期退院や、日常生活への早期復帰も期待できます。

## 実施の条件

ただし、このような治療を行うためには、最新式のハイブリッド手術室を備えていることや、心臓血管外科専門医、循環器専門医が各 3 名以上、日本心血管インターベンション治療学会専門医が 1 名以上在籍すること、豊富な心臓血管疾患治療実績の証明など、厳しい条件をクリアしなければなりません。その上で、心臓血管外科、循環器内科、放射線科、麻酔科をはじめ、看護師、臨床工学技士ら、専門のトレーニングを受けた「ハートチーム」で臨むことが必須条件です。「チーム医療」のひとつの究極のかたちが、この「TAVI」という治療法には不可欠なのです。

## 県内初の「TAVI」実施

安全確実に行うために、手術実施までに厳格なシミュレーションを 3 回行い、万全の体勢で臨みました。当日はヨーロッパから国際認定の指導医が赴き、英語で意見交換をしながら慎重着実に手技が行われました。手術を受けられた患者さんは、手術終了とともに麻酔から目覚めて、翌日には食事や歩行を開始し、手術から 6 日後の 12 月 17 日に退院し、お元気に自宅へ帰られました。




いりえ　ひろゆき

**★ お問い合わせ ★**

「TAVI」をはじめ、大動脈弁狭窄症の治療に関するご相談などは、かかりつけの先生とご相談のうえ、近森病院循環器内科または心臓血管外科までご連絡ください。月曜日に「TAVI 外来」を開設しています。